

報告書抄録

ふりがな	
書名	
副書名	
巻次	
シリーズ名	京都府遺跡調査報告集
シリーズ番号	第157冊
編著者名	
編集機関	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
所在地	〒617-0002 京都府向日市寺戸町南垣内40番の3 Tel. 075(933) 3877
発行年月日	西暦2014年3月28日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "		m ²	
おんなだに・あらさか おうけつぐんだいじゅう うさんじ 女谷・荒坂横穴群 第13次	やわたしみのやまご けどおりちない 八幡市美濃山御 毛通地内	26210	31 91 41	34° 50' 37"	135° 43' 33"	20120424 ～ 20130227	2,150	道路建設
あらさかいせきだいご じ 荒坂遺跡第5次	やわたしみのやまあ らさかちない 八幡市美濃山荒 坂地内	26210	70	34° 50' 38"	135° 43' 21"	20110421 ～ 20120224	315	道路建設

備考：北緯・東経の値は世界測地系に基づく。

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
女谷・荒坂横穴群第13次	横穴	古墳～奈良	横穴・石棺	土師器・須恵器・鉄製品・耳環・玉類	人骨出土
御毛通2号墳	古墳	古墳	方墳	家形埴輪・鶏形埴輪	
荒坂遺跡第5次	集落跡	古墳～奈良	なし	なし	

所収遺跡名	要 約
女谷・荒坂横穴群第13次	<p>今回の調査では、南東向きの丘陵斜面において20基の横穴を検出した。これらの横穴は狭い範囲に密集しており、築造する際に、玄室位置を前後に違えて構築したり、墓道や玄室床面に標高差を設ける等の工夫が見受けられるなど、先行して存在する横穴への影響を避けるため、計画的な配置を行っていたと考えられる。奥壁の形状には、床面から天井へ直立させるタイプと、緩やかに前傾しながらアーチを描くタイプの2種類が確認できた。閉塞に関しては、多くの横穴において土砂を盛り上げるにより行っていたものと判断される。32・33号横穴では、玄門に横穴の主軸方向と直交する溝が掘削されており、この溝に板戸を立てかけて閉塞した可能性も想定できる。埋葬施設としては当横穴群では初例となる石棺を1基確認したほか、出土した釘の位置から木棺が想定できる横穴が若干みられた。横穴の時期は、追葬の時期も含め古墳時代の終わりから奈良時代である。</p> <p>また、今回の調査では、20体余りの人骨が出土した。いずれも遺存状況は良好とは言えず、解剖学的な位置を留めているものはわずかで、多くは集骨された状態であった。</p>
御毛通2号墳	<p>直径約22mの円墳を検出し、周溝から多数の埴輪片が出土した。出土した埴輪には家形埴輪や鶏形埴輪などがある。</p>
荒坂遺跡第5次	<p>今回の調査では、4地点で計6か所のトレンチを設定して調査を実施した。</p> <p>A地区では古墳や掘立柱建物に関連する遺構の検出が、D地区では縄文時代の遺構・遺物の検出が期待されたが、いずれの地区においても遺構・遺物は確認できなかった。その他の地区でも遺構・遺物は確認できなかった。</p>